

【タクオのこぼれ話】

日本人の9割が知っている

『国民的外国人タレント』を乗せたぞ！

こんにちは、タクオです。

これまで3つのレポートをお配りしてきました。

どのレポートも「全力で」「出し惜しみせず」

書いたものなので、僕の気合いが入りすぎて

読む人によっては「ちょっと重いんだけど…」

と感じたかもしれませんね(苦笑)

いやいや！

ちょっと待ってください!!

基本的に僕は、それほど真面目な人間ではないんです(笑)

流し方勉強会やビアガーデンイベントで僕とお会いしたことのある方は、わかってくださいますよね！

「そっだよ！ あんた、もっとならかったじゃん」

となら得してもらえているはず 笑笑

そこで本日は、本来の「ならかいたくオ」で、この5年間で乗せたことのある有名人・芸能人の話をしてみようと思います！

「みなさんの役に立たなくても怒られない、ユルい話ができるうー♪」ということで、僕自身もとてもイキイキしながら書いています(笑)

これから本格的に「ブラックモード」に入っていきますが、その前の「休憩」を兼ねて早速まいりましょう！

● 東京のタクドラは有名人をよく乗せる！

ドライバーさんの SNS 投稿を見ていると、毎日のように、

「今日女優の●●さんに乗せました！」

(↑ 名前を伏せない愚か者も結構多い 笑)

「大好きな某お笑い芸人に乗せました！」

といった内容が目に入ってきます。

そりゃあそうですよね！

**芸能人・有名人の方々が移動で使う交通手段と言えば、電車・バスよりタクシーのほう
が圧倒的に多いわけですから。**

特に東京や大阪といった大都市では、毎日タクドラの誰かしらが芸能人・有名人を乗せているものと思います。

5年間のタクドラ人生で、僕も何人かの有名人をお乗せしました。

● 国民的演芸番組のレギュラー出演者

● お父さんが漬物屋さんのハーフの
元モデルさん

● 「やればできる！」が決め台詞のオレンジ
色の芸人さん

● 著名ジャーナリストの父の下で育った
若手研究者兼起業家

● ほとんどの日本人が知っているであろう
某大手通信会社の有名実業家

思い出せるだけでも、ざっとこんな感じですよ。

けど、僕が気づかなかっただけで、おそらくもっと多くの有名人・芸能人の方をお乗せしていたと思うんですよ。

**なにせ離婚した 13 年前からテレビを観なくな
って、有名人にまるで疎くなっちゃってわから
ないものですから(苦笑)**

**そして、そんなタクシーを利用してくださる
有名人・芸能人の方々は、本当に良い方
ばかり！**

こちらから話し掛けたりすることはほぼ無いもの、目的地の指定や会計時のやりとりも、穏やかで丁寧な方ばかりでした。

特に今でも忘れられないのは、野球好きの方ならみんな知っている、某在阪プロ野球球団のエース級ピッチャーのお客様。

4年前のある日、神宮球場近くで鳴った無線を取ると、画面には、

○神△イガース ■●▲ (←フルネーム) 様

の文字が！

僕は○神△イガースのファンというわけではないのですが、■選手のことは以前から知っていました。

**公立高校の野球部ながら甲子園に出場し、
当時から「良いピッチャーだな」と思っていた
選手だったんですね。**

**プロの世界に入ってから、■選手は試合中
でもいつも笑顔で、テレビやネットを通して**

その「人柄の良さ」が伝わってくるような好青年でした。

そんな■選手をお乗せし 5 分くらい経った頃、僕は意を決して■選手に話し掛けてみました。

どんなお客様でも、普段は自分から話し掛けるのがほとんどないタクオ。

あのときはまさに「^{きよみず}清水の舞台から飛び降りる」くらいの覚悟で■選手に話し掛けました。

「■選手、いつもテレビで観ています！」

(↑自宅にテレビが無いのに 笑)

実は僕の息子が中学で野球をやっていて、

『将来プロ野球選手になりたい』と話していま

して…

プロ野球選手になるには、どうすれば良いの

でしょうか？」

**「あの■選手が乗っている！」という興奮は
もちろんありました。**

しかし、それよりは野球が大好きな次男のために、あの日の僕は「プロ野球選手になる秘訣」を聞き出したい一心だったんですよ。

おそらく■選手は、僕がしたのと同じような質問を、これまでも何百回・何千回とたくさんの人たちからされてきたことと思います。

しかし、■選手は嫌な表情など一切見せず、僕の質問にとっても真摯に答えてくれました。

- **小学 2 年生の頃から朝と晩に 12km のランニングを毎日欠かさなかった。**
- **中学入学後から、就寝前に次の日の「やることリスト」を書くのが習慣で、プロになった今でも続けている。**
- **中学生の頃から「この練習にはどんな目的があるのだろうか？」と考える習慣があった。**
- **高 1 の秋に同級生がいたチームに負けたことで気持ちに火が点き、そこから本気で「甲子園」と「プロ」を目指すようになった。**

● その後は誰に言われるでもなく「中身の濃い練習」を重ねていたのもので、高3の頃には「県内では負ける気がしない」と、普通に考えていた。

● ■選手は「自分は自分、他人は他人」という考えなので、周りの人に何を言われようが気にならない。

(プロ野球選手のほとんどがそういうタイプらしい)

神宮球場から球団のマネージャーさん宅へ寄り、それから東京駅へと向かった■選手。

トータル 30 分余りの乗車時間の中で、■選手は本当にいろいろなことを話してくれました。

まるで「僕も息子さんがプロ野球選手になる日を待ってますよ！」と言ってくれているかのような、全てが「心からの言葉」でしたね。

先述のとおり、僕は○神△イガースのファンというわけではありません。

けど、「ただのタクシードライバー」の質問にも真剣に答えてくれた■選手のことは、今でも応援しています。

● 「国民的外国人タレント」を乗せた話

■選手に乗っていただいたことが、丸5年の僕のキャリアの中でも「指折りの感激エピソード」だったことは、言うまでもありません。

本当に素敵な■選手だったのですが、「では一番印象に残っている有名人だったのか？」と聞かれたら、速攻で「違う！」と答えます。

なぜなら、■選手を超えるほどの絶大なインパクトを僕に与えてくれた有名人が1人だけいるから(笑)

それが、このレポートのタイトルにもある
「国民的外国人タレント」のお客様 だったの
です！

そうですねえ、わかりやすいヒントを与えると、
「イツコン、ニコン、サン●ンです！」
が“お約束”の、あの方ですね(笑)

40 代以上の日本人であれば、9 割以上の人
がサン●ンさんのことを知っているのではない
でしょうか？

まさに「国民的外国人タレント」と呼んでも
差し支えのない、超有名人です。

● 50m 手前で「あれ？ サン●ンさん？」

3 年前の 12 月初旬。

前の日から雨が降り続いていたこの日は、
師走の忙し^{せわ}なさも相まって、朝から引っぱり無
しにお客様が乗ってきました。

乗せては降ろし、降ろしては乗せ。

息つく暇も与てくれない街の雰囲気、この日は「ああ、12月って感じだなあ」と、心地良い疲労に包まれながら営業していました。

芝浦から品川駅、六本木から赤坂、銀座から有楽町 etc.

ほとんどが近距離の運行でしたが、昼前に若い女性を銀座から西新宿まで送った後は、新宿周辺で営業。

**ここでも近場の仕事ばかりが続き、なかなか
売上を上げられずにいた師走の昼下がり。**

**「とりあえず新宿エリアを脱出しよう」と、
15 時過ぎに靖国通りを東に向けて流して
いると…**

**80m 先の水炊き屋さん『玄海』前の左側に
佇む「黒い人影」が目に入りました。**

**日本人ではなさそうな「黒い人影」は、一人
の「日本人」と一緒に、明らかにタクシーを探
している様子。**

そんな「黒い人影」は、ツバが大きめのハットを被り、明るめのジャケットを羽織っていて、ただならぬオーラを放っています。

「ん？ 何だ、あれは？」

(↑「誰だ？」という感覚ではなかった 笑)

僅かな^{いぶか}訝しさと警戒心を抱きながらも近づいていき、あと 50m まで接近したところで、その「黒い人影」の正体を確信しました。

「おおおお！ マジかよ！

サン●ンさんじゃん!!」

**僕のタクドラ人生の中で、このとき以上に
興奮 & 高揚したことは、後にも先にもありま
せん(笑)**

**なにせ子どもの頃から毎日のようにテレビで
見ていたオ●マン・サン●ンさんが目の前に
いるのですから！**

● 激しくアピールするサン●ンさん(笑)

お連れの「日本人」と一言二言交わし、僕の JPN タクシーに乗り込んできたサン●ンさん。

目的地を聞いて走り出しましたが、先述のとおり、僕からお客様に話しかけることはほぼありません。

いくら「乗客が有名人だから」と言っても、実車中の車内は「お客様のための時間と空間」ですからね。

「プロドライバーの端くれ」として、そこは大事にしています。

そんな矜持を携えつつ接客した僕は、この日もいつもと変わらず自分からサン●ンさんに話し掛けるようなことはしませんでした。

「普通の利用客」を乗せたものと考え、淡々とクルマを走らせます。

(本当は話し掛けたくて仕方なかったけど 笑)

すると、発進して数分経った頃、後部座席の

サン●ンさんが^{おもむ}徐ろに電話しはじめました。

「もしもし、はい、サン●ンです。

明日だったよね？

予定通りの時間でいいのかな？」

電話の相手はおそらく仕事関係の方で、翌日の予定を確認したかった様子。

お忙しい方ですので、スケジュール管理も大変そうですよね。

1 分強の短い通話を終えたサン●ンさん。

**間髪入れず、今度は別の相手に電話をかける
はじめました。**

「もしもーし、サン●ンでーす。

今向かってるから 20 分くらいかかりそう

だけど、大丈夫かな？」

**次の電話の相手は、どうやらお店か病院で、
これから何かしらのサービスを受けに行くよう
でした。**

そのためにタクシーに乗ったんですね。

ちなみにこのときのサン●ンさん、1回目の電話も2回目の電話も、「サン●ンです」の部分大きめの声量で強調していました(笑)

それが可愛らしくておもしろくて、笑いを堪えるのに結構大変でしたね 笑笑

そして、2本目の電話が終わると、暫しの間大人しくなるサン●ンさん。

目的地までは、あと 10 分弱。

**このまま静かな移動になるかと思った矢先、
サン●ンさんは何かを取り出そうと後ろでゴソ
ゴソしています。**

**すると、赤信号で停まったタイミングで、今度は
サン●ンさんが後ろから僕に話し掛けてく
るではありませんか。**

「運転手さん、ボク今からここに行くんだよね」

そう話しながら、一枚のカードを差し出すサン●ンさん。

カードの感じからすると、おそらくどこかのクリニックの診察券のよう。

そして、カードを持つサン●ンさんの親指の先には、

「お名前 オ●マン サン●ン 様」

の文字が(笑)

どうやらサン●ンさん、僕が気づいていないと
思い、電話と診察券を使って **必死にアピール**
していた みたいなんですよね 笑笑

いくら「寡黙なドライバー」を演じている僕
でも、ここまでされたらサン●ンさんの気持ち
を無下にするわけにはいきません(笑)

観念した僕は、診察券から目線を上げてサン
●ンさんの顔をしっかり見つめながら、「心

からのお声掛け」をさせてもらいました。

「サン●ン様、子どもの頃からいつもテレビで
見てました。

大好きな方を乗せられて嬉しいです♡」

僕の言葉を聞いて、「やっばそうだよねー♪」
と言いたげなほど一点の曇りもない快心の
笑みを見せてくれたサン●ンさん。

ニヤーツと笑ったあのいたずらな笑顔は、今
でも忘れられません(笑)



サン●ンさん、あのときはありがとうございました！

**会計の際に改めて後ろを向いたら、ちょっと
酒臭かったサン●ンさん(笑)**

テレビで見る以上の「サービス精神」に溢れたサン●ンさんが、僕のタクドラ人生で一番嬉しかった有名人で間違いありません。

サン●ンさん、これまでもこれからも、変わらず応援しております！

**というわけで、今回は「ウラ話」的な感じで
僕が乗せたことのある有名人・芸能人の話を
させていただきました。**

**東京・大阪など特に大都市のタクドラさんは、
一度は有名人・芸能人を乗せたことがありま
すよね？**

**みなさんの「有名人・芸能人エピソード」も
おもしろそうなので、こちらの LINE でぜひ
教えてください！**

楽しみにお待ちしておりますね！

タクオ 